

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

議論の夏 緊張の夏 (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 伊藤 一輝

今週のドル円予想レンジ **108.80 ~ 110.50**

りそなWEEKLY COLUMN

ゴルフアーの心構え (P3)

りそな銀行 市場トレーディング室
島崎 晃太郎

- ゴルフで重要なのは技術よりも精神である
- 最悪の状況を想定しておくことも必要

2021/6/14

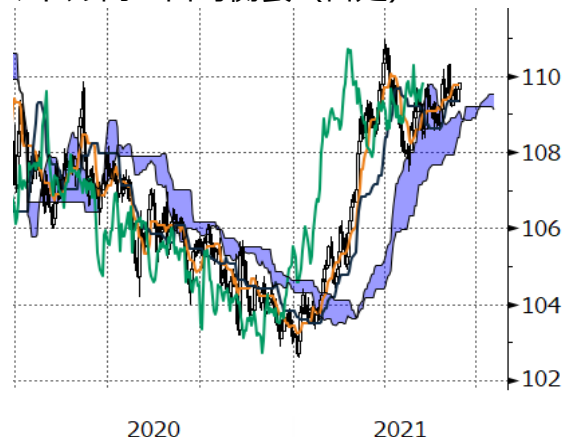
りそな外為レポート

議論の夏 緊張の夏

今週のドル円予想レンジ **108.80 ~ 110.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週のドル円相場は109円台での推移が続いた。10日の米消費者物価指数は市場予想を上回る結果となったものの、時間の経過とともに米金利は低下し1.4%台をつけ、その日は小幅にドル安となった。米国のインフレ高進は「FRBが気にかけるほど長く持続しない」との見方が強まっているのだろう。

今週はFOMCが実施される。量的緩和の縮小(テーパリング)について、早ければ今回の会合で議論の開始を見込む。ただし、足元の雇用情勢が不透明な中で具体論には踏み込まず、市場は材料不足との判断を下すように思う。

米国の州別人口2位のテキサス州、3位のフロリダ州では、6月最終週に失業給付の上乗せ打ち切りを予定する。労働市場で再就職への活動の盛り上がり確認できれば、テーパリング開始の議論が「本格」始動となり、市場の反応はナerveスになるだろう。

(カスタマーディーラー 伊藤 一輝)

◆今週の日程

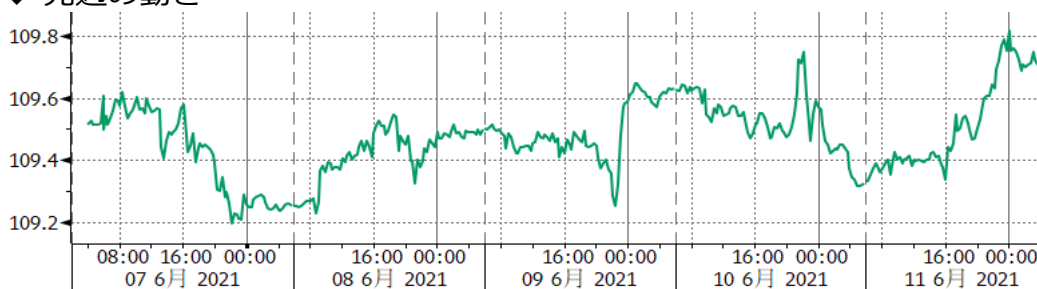
15日(火) 米 5月PPI	16日(水) 中 5月生産・小売・投資
15日(火) 米 5月小売売上高	16日(水) 米 FOMC (結果発表)
15日(火) 米 5月鉱工業生産	17日(木) 米 6月フィラデルフィア連銀製造業指数
16日(水) 日 4月機械受注	18日(金) 日 5月CPI
16日(水) 日 5月貿易統計	18日(金) 日 日銀金融政策決定会合

◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓)

NY引け値 6月11日(金) 109.66円 VS 6月18日(金)

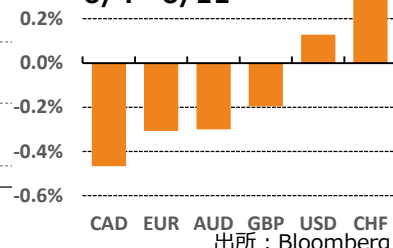
東京					大阪(りそな)					埼玉				大阪(関西みらい)					神戸											
井口	小林伸	石川	湊一	田中	湊真	中里	范	伊藤	村永	小林翔	鈴木	武富	上野	中太	石井	中根	津田	佐藤	中山	内田	荻窪	藤森	三好	石田	尾股	中野	荻谷	辻村	山木	下川
↑	↑	↓	↑	↑	↑	休	休	↑	↑	↑	↓	↓	↑	↓	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス

6/4→6/11



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/6/14

りそな WEEKLY COLUMN

ゴルファーの心構え

- ゴルフで重要なのは技術よりも精神である
- 最悪の状況を想定しておくことも必要

りそな銀行 市場トレーディング室
島崎 晃太郎

➤ グリーンジャケット、 着てみたい

2021年4月11日、松山英樹選手はアジア人として史上初めて、グリーンジャケットに袖を通した。日本人のマスターズチャンピオンが誕生した瞬間である。テレビの前で胸を熱くしたゴルファーの方もさぞ多いことだろう。松山選手の優勝がどれくらいの快挙なのか、ゴルファー以外の方には分かりづらいかもしれないが、たとえば「山手線の内側の土地でアメリカ全土が買える」以来の、否、「明日から世界の基軸通貨は円になる」くらいの衝撃なのだ。

➤ プロを目指す選手に 囲まれていました



かくいう筆者も、今では見る影もないが、ジュニア時代(高校生まで)は競技ゴルファーとしてプロを目指す選手たちと切磋琢磨していた経験がある。ゴルフよりも勉学の才能に目覚めてしまったことにより(笑)、本気でプロゴルファーを志すには至らなかったものの、共に練習した仲間や先輩、大会で同組だった選手がプロゴルファーとして活躍している姿を見ると誇らしく思う。

筆者の年代は、特にジュニアゴルファーの多い世代であった。宮里藍選手や石川遼選手の登場でゴルフ界が一気に盛り上がり、日本中の親たちが自分の子供にゴルフを仕込み始めたからで、筆者が中学生から通っていた練習場のスクールも、常に定員いっぱいに入会希望者が入会の順番待ちをしているという状況であった。その練習場には7ホールショートコースが併設されており、スクール生は打席での練習に加えてショートコースでラウンドしてグリーン周りの技術を磨いていた。スクールでは、月例の競技会や対抗戦等もあり、結果が悪いと居残り練習や走り込み、来月の競技会が出場停止になるなど、厳しい(とは言ってもかわいいものであるが)競争環境が作られていた。

➤ ゴルフで一番大事な なこと

筆者が師事していたコーチは、技術よりも精神面、そしてルールとマナーを何よりも重視する人で、ゴルフというスポーツそのものへのリスペクトにあふれていた。当時はもっと技術面を教えてくれよと思ったものだが、今振り返れば、師に叩き込まれたゴルフとそれに関わる人へのリスペクトの姿勢、競技中のメンタルコントロールとコースマネジメントの考え方は、小手先の技術よりもはるかに価値があり、ゴルファー以前に人間として大事なことであったと気づかされる。

りそな WEEKLY COLUMN

師が繰り返し「バカではゴルフは上手にならない」言っていたのも、メンタルコントロールやコースマネジメントの重要性を踏まえてのことだったのであろう。実際、ショットが上手く飛距離も出るのにスコアに結びつかず結果が出ない、という選手も多かった。

ゴルフは「上がってナンボ」のスポーツである。いくらいいショットを打とうと、結果的に何打でホールアウトしたのかで勝敗が決まる。350ヤード飛ばした会心の一打も、1cmのパッティングもスコア上は同じ1打としてカウントされる。ゴルフという競技においては、「芸術点」はないので、いいショットを打つことよりも少ない打数で上がることの方が評価されるうえ、その過程も問われない。

➤ 師の教え

上記の事実を基に、師は気持ちの浮き沈みを抑え冷静に対処すること、そして「キレない」ことの重要性を説いた。小さなミスで1打余分に打ってしまったとしても、どこかで取り返すチャンスが来る。ミスに腹を立て平常心を失えば大崩れにつながるだけでなく、チャンスすら作ることができなくなってしまう。逆に、バーディーが先行して浮かれていると、せっかくの貯金を簡単に吐き出してしまうことだってある。いいショットを打てれば誰でも嬉しいものだが、それはあくまで「1打」に過ぎないということを忘れてはいけないのである。

飛距離を稼ぎ、常にピンを狙っていくことだけが攻めの姿勢ではないということも学んだ。筆者が高校2年生の関東大会予選の時である。距離が比較的短く、グリーンも小さく非常に速いというコースの特徴から、飛距離アドバンテージよりも正確性を優先する方が予選通過に近づくと考え、1wを一切使わない(自宅に置いておく)という決断をした。作戦的中し決勝大会進出を果たした。一見守りのような策でも、徹底していればそれは真の「攻め」の姿勢となりうるのである。

師の教えでもう一つ、強く意識していたことがある。「ミスをしたときは最悪の状況を想定する」ということである。すぐネガティブに聞こえる内容だが、実は違う。「最悪の状況を想定しておけば、本当にその状況を目の前にしても受け入れることができるし、対応や決断も早くなる。もし想定よりも良い状況ならば前向きになれる」ということである。やってしまったミスをなかったことにはできない以上、そこからどうやって挽回するかを考えるべきで、あらゆる状況に対応できるメンタルを準備しておく必要があるのだ。

ディーリングの世界もメンタルや考え方が肝要。相場が予想と逆に動いた時には最悪の状況を想定しつつも、前向きに次の対策を考えておくことが必要であり、ゴルフの世界にも通じるものがある。相場の世界に入って改めてゴルフというスポーツの奥深さを感じた。

